

平成28年度 第1回江別市行政評価外部評価委員会 会議録（要点筆記）

日 時：平成28年9月1日（木） 9:30～11:40

場 所：江別市民会館 31号室

出席委員：井上宏子委員長、千里政文副委員長、武岡明子委員、山下善隆委員、
菅原涼子委員、小原克嘉委員、小野寺さゆみ委員、中井和夫委員（計8名）

事務局：企画政策部北川部長、政策推進課中島参事、天明屋主査、左川主任

会議概要

1 開会

2 議事

（1）平成28年度行政評価外部評価委員会の進め方について

○井上委員長

議事（1）について、事務局から説明願う。

【事務局から議事（1）を説明】

- ・資料1 平成28年度行政評価外部評価委員会の進め方
- ・資料2 江別市行政評価外部評価委員会における外部評価の視点

○井上委員長

事務局からの説明で意見等のある委員は発言願う。

○中井委員

評価手法を口頭での意見のみとして、正しく事業の評価をしたと言えるのか。

○井上委員長

基本的な考え方は昨年から変わっておらず、あくまで、今年度、外部評価対象となる戦略2の構成事業が19事業と多いことから、効果的・効率的に進めるために意見を口頭で出し合ってまとめていくものである。最終的には、昨年度同様、ヒアリングや書面照会をもって各事業の不明点を明らかにしていくことになる。口頭にて意見を出し合っていく手法は、当委員会では初めての手法であることから、実施した上で前年度のような評価シートへの記載を行う方法が効率的であれば、元に戻すこともできる。

○中井委員

了。

（2）えべつ未来戦略における戦略2構成事業の概要の説明

○井上委員長

それでは、続いて議事（2）について、事務局から説明願う。

【事務局から議事（2）を説明】

- ・資料3 えべつ未来戦略推進計画書（戦略2）

○井上委員長

事務局からの説明で意見等のある委員は発言願う。

【質疑なし】

○井上委員長

つづいて、引き続き事務局から説明を願う。

【事務局から議事（２）を説明】

・資料４ えべつ未来戦略 戦略２ 事務事業評価表（平成２７年度実績）（Ｐ１～Ｐ２）

事務局から議事（２）のうち「経済活動広報事業」を説明

【質疑】

○中井委員

この事業の「対象」は、「市民」とされているが、「意図」の「企業間連携」を踏まえると、「対象」に「商工業者」等も含まれるのではないか。

また、「手段」のフリーペーパーがどんなものであるのか記載がないことからフリーペーパーは現物を示してほしい。正職員人件費についても平成２７年度実績から平成２８年度当初にかけて増加しているにもかかわらず、担当課評価（５）「効率性」の記載は、事業費の内容にかかる記載のみであり、正職員人件費についても含めた記載にすべきと考える。

○事務局

今の中井委員の正職員人件費についての意見についてであるが、本委員会が前年度実績評価についての外部評価の場であることから、平成２８年度当初に計上された正職員人件費の検討は趣旨から外れるため、意見・提言とさせていただきたい。また、正職員人件費の積算方法については、職員１人当たり単価から事業の業務量を事務的に人工割りした数値から算出されたものであり、昨年度の本委員会でも説明したとおりである。

○中井委員

了。

○井上委員長

ほかに意見のある委員は発言を願う。

○小野寺委員

ほかの事務事業評価表においても言えることであるが、総じて「事業開始背景」や「事業を取り巻く環境変化」の記載がない事業が目につく。これは、記載事項が無いのか、単なる記載漏れであるのかが分からない。

○事務局

まず、「事業開始背景」に記載がない事業について考えられることは２点ある。まず１点目は、事業開始時期が把握できないほど過去であり、当市が行政評価を取り入れた平成１３年度時点でも事業開始の詳細が分からなかったという場合である。また、２点目は、小野寺委員の意見のとおり、記載漏れの可能性がある。

また、「事業を取り巻く環境変化」に記載のない事業においても２点あり、１点目は、

事業が始まったばかりなどの理由により記載する事項が無い場合であり、2点目は、先ほど同様に記載漏れの可能性がある。

○小野寺委員

了。市民としては、記載してもらいたいと考える。

○武岡委員

「成果指標1」に設定されている「広報した産業・企業数」は活動量を示す指標であるため、「活動指標2」において設定すべき指標と考える。

また、担当課評価(3)の「成果動向及び原因分析」に記載されている「広報折込」と「フリーペーパー」については、平成26年度が「広報折込」による広報、平成27年度が「フリーペーパー」による広報ということによろしいか。

○事務局

そのとおりである。

○武岡委員

了。

1頁の「指標・事業費の推移」において、「年間発行回数」が26年度は1回、27年度は6回とあるから、類推することも可能ではあるが、分かりやすさという点からいうと、2頁の「担当課の評価」の(3)は、「26年度は広報折込(年1回)としていたが、27年度からはフリーペーパー掲載(年6回)に切り替えた」としてある方が分かりやすい。この部分だけではないが、総じて、不親切で分かりにくい箇所がある。丁寧に分かりやすく書いていただきたい。

○山下委員

先ほど、小野寺委員からも意見があった「事業開始背景」については、評価表の様式に記載欄があるということは、個人的には「説明責任が生じる」と捉えているため、事業開始当時の状況が分からないような状況であれば、その旨を説明して明確にすることも必要と考える。

また、成果指標の設定については、この事業の成果に見合った指標を設定してもらいたい。

○井上委員長

ほかに意見がなければ、この事業の検討については終了し、次の事業へ移りたい。事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事(2)を説明】

- ・資料4 えべつ未来戦略 戦略2 事務事業評価表(平成27年度実績)(P3～P4)
- 事務局から議事(2)のうち「商工業活性化事業」を説明

【質疑】

○中井委員

この事業の「対象」の4番目に記載のある「個人」というのは、「個人経営者」のことを指しているのか、個別の「個人」を指しているのか、どちらかが分からない。事業を実

施するに当たっては、適切な「対象」へ実施することが大切であるため、正しく記載してもらいたい。

また、「事業開始背景」に記載のある、「大型店の出店、価格破壊」といった当時の社会情勢が、現在はどうのように変化しているのかが「事業を取り巻く環境変化」に記載されていない。事業開始時からの変化を記載すべきと考える。

○小野寺委員

「手段」に補助金の手順が記載されているものの、どのような補助メニューなのか、募集要件がどのような内容なのかの記載がないことから、補助金を受けて「対象」が何を行っているのかが見えない。

○山下委員

「成果指標１」の「補助金の活用件数」については、「活動指標１」の「補助金額」の見方を変えただけで、同じ内容を指している。これは成果と言えないので、「活動指標２」と設定し直し、新たに「意図」や担当課評価にて記載されている「イベント」について掘り下げた指標設定をした方が良く考える。「対象」に「補助金」を出した結果、どのような「成果」があったのかは、「手段」の「イベント」においては、「集客数」「売上」「コストパフォーマンス」などが求められる成果となるはずである。

○井上委員長

ほかに意見が出なければ、この事業の検討については終了し、次の事業へ移りたい。事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（２）を説明】

・資料４ えべつ未来戦略 戦略２ 事務事業評価表（平成２７年度実績）（Ｐ５～Ｐ６）

事務局から議事（２）のうち「江別経済ネットワーク事業」を説明

【質疑】

○中井委員

「対象」が「経済ネットワークの参加者」とあるが「成果指標１」には「経済ネットワーク会員数」と設定されている。「参加者」「会員」では内容が異なるので、統一した設定が必要と考える。また、「事業を取り巻く環境変化」においては、平成１４年度からの事業であるにもかかわらず記載されていない。社会情勢も変化しており、環境変化が何もないということはないと思うので、例えば、経済ネットワーク会員のニーズの変化など、そういった記載をしていくべきと考える。担当課評価の記載内容については、全体的によく分からないが、特に担当課評価（５）の「効率性」の記載については、先ほどの「経済活動広報事業」同様に正職員人件費まで含めた検討と記載が必要と考える。

○小野寺委員

この事業の評価表全体の記載内容からは、市が主体性をもって実施している事業ではないように見えるが、毎年、正職員人件費が３,０００千円程度もかけられている。この評価表からは、コストに対しての成果がどのように上がったのか、まったく読み取ることができない。

○山下委員

「事業開始背景」において、「新規産業の創出」「既存企業の高度化」「新製品の開発」「雇用拡大」などの目的が記載されているが、成果指標との設定が「意図」「成果指標」とミスマッチを起こしている。事業の成果として設定できる指標を検討し直して設定する必要がある。また、中井委員から意見のあった担当課評価（５）「効率性」の考え方は、「事業費」のみでなく「正職員人件費」を合わせたトータルコストであることを強く申し入れたい。

○井上委員長

担当課評価の（２）「上位貢献度」、（３）「成果動向及び原因分析」、（４）「成果向上余地」にも記載があるが、文末が「期待できる」に統一して締めくくられている。また、上位計画への貢献度が「大きい」と判断しているだけに、本来、このような状況であれば、「期待できる」として評価を終えるのではなく、その先を記載すべきではないだろうか。また、このような将来的に期待が持たれるような事業は、必要なところに必要なだけ人とコストをかけるという事業展開をしても良いように感じる。

ほかに意見がなければ、この事業の検討については終了し、次の事業へ移りたい。事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（２）を説明】

- ・資料４ えべつ未来戦略 戦略２ 事務事業評価表（平成２７年度実績）（Ｐ７～Ｐ８）

事務局から議事（２）のうち「食を軸とした観光誘客・地場産品販路拡大事業」を説明

【質疑】

○中井委員

「対象」に「中小企業者」が設定されているが、「対象指標２」に設定されている「観光協会」が記載されていない。なぜ、「中小企業者」と限定してしまっているのか分からない。また、「事業を取り巻く環境変化」には「北海道産品の需要は道内外から求められているところである」との記載があるが、市として、受け身でいるのではなく、もっと主体的に江別産品を発信する姿勢を示していくべきと考える。

○井上委員長

「成果指標１」には、「商談会・催事出展企業数」が設定されているが、本来、正しい成果として考えられるのは、この指標の中の例えば「商談会」にてどの程度商談が成立したのかが成果になると考えられる。

○山下委員

今の井上委員長の内容と重複するかもしれないが、「成果指標１」に設定された「商談会・催事出展企業数」は、先ほどの「商工業活性化事業」同様に「活動指標１」の「商談会・催事出店件数」の見方を変えただけで、同じ内容を指している。これは成果と言えないので、「手段」の後半に記載されている「販路拡大」「観光誘客数」に係る指標や、井上委員長の意見である「商談の成果」などを設定すべきである。

○井上委員長

ほかに意見がなければ、この事業の検討については終了し、次の事業へ移りたい。事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（２）を説明】

- ・資料４ えべつ未来戦略 戦略２ 事務事業評価表（平成２７年度実績）（Ｐ９～Ｐ１０）

事務局から議事（２）のうち「野幌駅周辺地区商店街活性化促進事業」を説明

【質疑】

○武岡委員

９頁の「指標・事業費の推移」において、平成２６、２７年度とも「補助金額」も「誘致件数」のいずれもゼロとなっているが、１０頁の「担当課の評価」では「貢献度が大きい」とされていることに違和感を覚える。具体的にどのような貢献があったのか、この評価表からは読み取れない。また、成果指標１として「相談件数」があげられているが、これは活動指標というべきであり、成果指標ではないと考える。

○中井委員

この事業は、江別の顔づくり事業の一環として開始された事業であるが、顔づくり事業について記載された「事業開始背景」と担当課評価（１）「目的妥当性」における記載のみであり、どのような位置付けでどのような事業であるのかの全体像が見えない。もう少し顔づくり事業の一環であるという説明や現在までの取組状況なども「事業を取り巻く環境変化」において、記載すべきと考える。

○山下委員

「成果指標１」に設定されている「相談件数」についてであるが、「相談件数」が多くなれば成果が上がっていると言えるのだろうか。相談とは、何らかの不満を言う場合も多くあり、相談件数イコール成果とは一概に言えないのではないかと。逆に、説明会を実施した場合では、相談件数が少ないことで説明会による理解度を測ることもできるため、逆に相談の少なさが成果と呼べる場合もある。行政としては、何らかのリアクションがあれば成果と捉える場合があるかもしれないが、このあたりは明確な判断基準がないため、指標設定としてはふさわしくないと考える。

なお、この事業においては、「意図」において記載されている「地域課題が解決される」「商店街の集客力が向上される」という内容から導き出される「成果指標」を設定すべきではないか。

○井上委員長

ほかに意見がなければ、この事業の検討については終了し、次の事業へ移りたい。事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（２）を説明】

- ・資料４ えべつ未来戦略 戦略２ 事務事業評価表（平成２７年度実績）（Ｐ１１～Ｐ１２）

事務局から議事（２）のうち「商店街参入促進事業」を説明

【質疑】

○中井委員

「対象」の「市民」については、どのような市民なのかをもう少し絞って記載をすべきと考える。また、「手段」において、「コミュニティ活動啓発セミナーの開催」との記載があるが、市が直営で実施しているのか、委託で実施をしているのかが、評価表の「手段」から読み取れない。何をやっているのかを「手段」にて明確に示すべきと考える。「事業を取り巻く環境変化」においては、「大型店の寡占化」「消費活動の多様化」と事業への課題が記載されているが、「市内の商店街の衰退が顕著である」という記載もあり、これは商店街の自助努力が足りないような書き振りに見え、個人的には表現に不満がある。

○井上委員長

不満については、評価の視点ではないため評価内容の不備とまでは言えないが、内容としては意見として整理させていただく。

○小野寺委員

担当課評価（４）の「参入例が増え、啓発効果が高まることにより、成果向上の余地がある」という記載について、この啓発がどのような啓発であり、啓発によってどんな団体がどこにどのような参入をするのか、このあたりの内容は、評価表から読み取ることができない。また、「参入例が増え、啓発効果が高まることにより」という部分については、「参入例」が増えてどうにかなるのではなく、この事業の目的は「参入例」を増やしていくことにあるのではないか。

○井上委員長

今、小野寺委員より事業の目的についての意見が出されたが、「手段」や「事業内容」「費用内訳」に記載のある「啓発セミナー」について、誰を講師にして何を題材にしてセミナーをやっているかが見えないため、このセミナーの対象者もまったく想像ができない。評価表全体に言えることであるが、具体的な情報がまったく見えない。

○千里副委員長

先ほどから意見の出ている「セミナー」については詳細に触れられていないので、例えば、我々大学が携わっているものか否かも判断ができない。この事業においては、まず、セミナーの内容を「手段」に整理しなければ、評価ができないと考える。

○山下委員

「成果指標２」に「サポート事業実施数」と設定されているが、これについては、今、各委員から意見の出ていた「セミナー」同様、「手段」や「意図」に「サポート事業」の状況などが詳しく書かれていないため、まったく分からない。さらに言えば、「成果指標２」の「サポート事業実施数」は「活動指標」となるべき性質のものであることから、「活動指標」へ設定を変更し、新たな「成果指標」には「意図」の「商店街の賑わいをもたらす」との記載に基づき、「商店街の売上」や「商店街利用者」を設定することが適切と考える。

○井上委員長

ほかに意見がなければ、この事業の検討については終了し、次の事業へ移りたい。事務

局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（２）を説明】

- ・資料４ えべつ未来戦略 戦略２ 事務事業評価表（平成２７年度実績）（Ｐ１３～Ｐ１４）
事務局から議事（２）のうち「総合特区推進事業」を説明

【質疑】

○井上委員長

「対象」において、「北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区（区域）」と記載されているが、「対象指標１」の設定が、「特区協議会の構成員数」と設定されており、単位も「団体」とされており、「対象」と「対象指標」が不整合であると考える。

また、「手段」において、それぞれの取組内容が詳しく書かれているものの、「意図」と見比べると、「手段」を受けての効果が「意図」に記載されるべきであり、双方の内容のつながりが分かりにくい。もう少し、「手段」と「意図」のつながりを意識した書き方が必要ではないだろうか。

○中井委員

まず、「対象」が「北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区（区域）」とされているが、この「特区」自体が市民にとって馴染みのない言葉であって、どのようなものであるのかが分からない。この「特区」がどのような役割のものであるのか明確に示すことが必要と考える。また、「意図」の記載が、「新規立地“するようになる”」や「事業を拡大“するようになる”」となっており、「するようになる」という記載は、行政に「意図」があって事業展開しているにしては受け身すぎる。もっと、行政主導で何を進めて何を求めているのかを、明確にすべきである。「成果指標」の設定についても、当事業の「手段」が「協働事業の推進」や「研究機関との連携」であるならば、この結果として、「出荷額の増加」「共同研究の実施」などが成果としてふさわしいと考える。

○井上委員長

担当課評価（２）において、「上位計画の戦略成果指標「プロジェクトによる新アイテム開発取組数」」について記載されており、この「実績があることから、貢献度が大きい」と記載されているが、当事業の「成果指標１」は「食関連企業の新增設数」であり、単位も「社」である。当事業の「成果指標」からは、上位計画の成果指標「プロジェクトによる新アイテム開発取組数」との関連性が見えず、今の記載では、事業の貢献度が測れないように見える。

「活動指標２」に設定されている「補助金額」であるが、平成２６年度実績が「10,295千円」であるが、平成２７年度実績が「6,691千円」と大幅に減額されているにもかかわらず、なぜ、補助金額が減額されたのかが見えない。

総じて、当事業の評価表は、事業の全体像が読み取れず、全体的に内容が分からないと言えるのではないだろうか。

○千里副委員長

内容が見えないと評価のしようがない。

○山下委員

各委員の意見同様、内容が分からないので、適切な内容の評価表としていただきたい。

「成果指標」の設定についてであるが、「意図」には、「新規立地」や「事業拡大」といった記載があるが、この記載内容からすると、「成果指標」はこれに基づいた指標を設定すべきである。

○井上委員長

少し内容の分かりにくい評価表であったが、他に意見がなければ、この事業の検討については終了し、次の事業へ移りたい。委員会終了時刻も迫っていることから、次の事業を本日最後の事業検討とする。事務局から次の事業の説明を願う。

【事務局から議事（２）を説明】

- ・資料４ えべつ未来戦略 戦略２ 事務事業評価表（平成２７年度実績）（Ｐ１５～Ｐ１６）
事務局から議事（２）のうち「企業誘致推進事業」を説明。

○中井委員

「対象」について、「企業・事業所」とあるが、市にとって、誘致される企業が何でも良いわけではないだろうから、この「対象」については、もっとターゲットを絞った書き方にすべきではないだろうか。

また、担当課評価（３）の「成果動向及び原因分析」について、成果は「上がっていない」とされているが、「成果指標１」の「立地企業・事業所数」は、平成２５年度及び平成２６年度実績が「５社」、平成２７年度実績が「１社」であり、平成２６年度までは成果が出ており、平成２７年度のみ成果が出ていないということであれば、担当課評価（３）の「成果動向及び原因分析」の記載は、単年度のみを切り取った内容とするのではなく、過去の実績をも含めた内容を記載して良いのではないだろうか。あわせて、担当課評価（４）の「成果向上余地」において、「成果向上余地 小・なし」とされているが、この事業が行政として必要であると判断して事業展開しているのであれば、成果は「上がっていない」かつ「成果向上余地 小・なし」と結論付けていることに違和感を覚える。

○小野寺委員

担当課評価（４）「成果向上余地」に「抜本的には工業団地の整備等この事業にとっては外部要因が大きいと考える」と記載されているが、この記載内容は、「事業を取り巻く環境変化」において記載すべき内容と考える。

また、この事業の開始年度と終了年度が書かれていないが、今後においても継続して事業を実施していくものであれば、その旨が読み取れないので、どこかに記載すべきではないか。

○井上委員長

各委員から意見の出ているとおりである。

戦略プログラム名が「食」の付加価値を高める産業の集積」とされているが、「対象」は「企業・事業所」とされており、えべつ未来戦略の構成事業である戦略性が見えないので、もっと絞り込んだ記載とすべきと考える。また、「手段」「意図」においても、「対象」

において出された意見同様に、戦略的な取組を含めてもう少し方向性を示すべきではないか。ほかに意見がある委員は発言願う。

○山下委員

各委員の意見同様、まず「対象」については、道内なのか全国なのか、どこまでの範囲が「対象」となっているかが分からない。「対象」の範囲を明確にすべきである。

また、「手段」において、「情報収集」「PR活動」「情報提供」などと記載があるが、「活動指標1」の設定には「企業、産業支援機関等の訪問数等」とされており、それぞれの活動量の合計値が計上され、内訳の活動量がまったく分からない。そもそも「訪問数等」とは何を指しているのか。「手段」が整理されず、よく分からない記載になっていると、「活動指標」までおかしい設定になってしまうので、適切な整理をしてもらいたい。

担当課評価(4)の「成果向上余地」において、先ほど小野寺委員から意見のあった「抜本的には工業団地の整備等この事業にとっては外部要因が大きいと考える」の記載について、まず、工業団地の状況や環境について、説明されるべきと考える。現在の受け入れ態勢の整っている土地が何区画あるのかが記載されないと、ここでは成果向上余地は測れないのではないかと。誘致企業の受け入れ用地が1区画分であれば、この状況に基づいた内容の記載になるし、また、今後、受け入れ用地の不足により工業団地の造成予定があるのであれば、造成される区画分が成果向上余地となるので、その旨の記載が必要となる。担当課評価(4)「成果向上余地」については、このような部分にも留意して評価内容を記載いただきたい。

○井上委員長

非常に重要な意見である。

他に意見がなければ、本事業の検討についてはこれにて終了とし、議事(3)へ移るが各委員より意見はないか。

【各委員意見なし】

(3) その他

○井上委員長

それでは、続いて議事(3)その他について、各委員から意見があれば発言願う。

【各委員意見なし】

3 その他

○井上委員長

では、3その他について、最後に事務局から何か事務連絡等はあるか。

【事務連絡】

- ・第2回委員会の開催日の確認、第3回以降の委員会開催の日程調整について

4 閉会